

人が倒れている。尚、新型コロナウイルス感染症が流行している状況では、感染の疑いがあるものとして対応する。		
1	安全を確認する	周囲の安全を確認する
2	反応を確認する	<p>肩をやさしくたたきながら大声で呼びかけても 目を開けるなどの応答や目的のある仕草がなければ 「反応なし」とみなす 確認の際に自分の顔が傷病者の顔と あまり近づかないようにする</p> 
反応がない、よくわからない場合、 「誰か 来てください！人が倒れています！」 大声で叫んで応援を呼ぶ		
3	119番通報して AEDを依頼 通信指令員の指示 に従う	<p>そばに誰かがいる場合、 「あなた、119番通報をお願いします」 「あなた、AEDを持ってきて下さい」 ※AED到着後の手順は裏面 (周りに誰もいなければ、まず自分で119番通報し、 AEDが近くにあれば取りに行く)</p> 
4	呼吸をみる	<p>胸と腹部の動き(呼吸をするたびに上がったり下がったりする)をみる 「死戦期呼吸」と呼ばれるしゃくりあげるような 途切れ途切れの呼吸の場合も呼吸がないと考える (呼吸の観察に10秒以上かけないようにする) 観察の際に自分の顔が傷病者の顔と あまり近づかないようにする</p>  <p style="text-align: right;">死戦期呼吸 の動画</p>
呼吸なしまたは死戦期呼吸		
5	胸骨圧迫を行う	<p>胸骨圧迫(心臓マッサージ)を30回行う * 感染防止のため胸骨圧迫を開始する前にハンカチや タオル、マスクなどで傷病者の鼻と口を覆う * 救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に呼吸や 目的のある仕草が認められるまでくりかえす * 胸の真ん中を強く(約5cm 沈み込むように)、 速く(100~120回/分)、絶え間なく(中断は最小に)圧迫する * 圧迫解除は胸が元の高さに戻るまで * 1~2分ごとに交代する</p> 
6	心肺蘇生	人工呼吸の技術と人工呼吸の意思がある場合でも、人工呼吸は実施せず胸骨圧迫だけ続ける 人工呼吸を行わず胸骨圧迫だけを行っている場合は短い時間で疲れてくるので、頻繁な交代が必要となる
7	心肺蘇生実施の後	救急隊到着後に、 救急隊に引き継いだあとは、速やかに石けんと水で手や顔を十分に洗う 使用したハンカチ、タオル、マスクなどは直接触れないようにして捨てるのが望ましい

※[救急蘇生法の指針 2015 市民用より一部引用]

※新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた市民による救急蘇生法について(指針)より一部引用

AED到着後から心肺蘇生まで

NO. 2

※ AEDを使用する時は、未就学児（おおよそ6歳まで）までは小児用パッド又は小児キーを使用、小児用パッド等がない場合は、成人用パッドを代用する（成人に対して小児用パッドを用いてはならない）。

※ AEDは、電源を入れると音声メッセージが流れ、実施すべきことを指示してくれますので落ち着いてそれに従ってください。

1	AEDを傷病者の頭の近くに置く		胸骨圧迫（心臓マッサージ）を繰り返す	
2	電源を入れる	ふたを開け、電源ボタンを押す (ふたを開けると電源の入る機種もあります)		
3	電極パッドを貼りつける	傷病者の胸から衣服を取り除く 電極パッドをイラストに従って肌に直接貼り付ける		
4	ケーブルを接続する	ソケットに電極パッドのコネクタを接続する (心電図の解析が始まる)		
5	心電図の解析	「 <u>体から離れてください</u> 」 周囲の人に傷病者から離れるように伝える		
6	充電	誰も触れていないことを確認する 電気ショックが必要である場合には、「ショックが必要です」などの音声メッセージとともに自動的に充電を開始する		
7	除細動を行う	ショックボタンを押す (誰も傷病者の体に触れていないことを確認) 「 <u>ショック</u> 」		
8	ただちに胸骨圧迫を再開する			
9	2分おきに自動的に心電図解析を始めますので、心肺蘇生を中断する			
10	この後は、AEDの音声メッセージに従う * 電気ショックと心肺蘇生は救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に呼吸や目的のある仕草が認められるまでくりかえす)			

* 救急隊へ伝達すること ⇒ 電気ショックを行った回数、胸骨圧迫（心臓マッサージ）を開始した時刻、電気ショックを行った時刻